

策定懇話会・地域懇談会での主な質問・意見について

区分	件数	区分	件数
●制度設計に関すること	23 件	(ふれあい入浴)	1 件
(対認知症要支援者)	4 件	(行政手続支援)	1 件
(福祉推進員)	4 件	(高齢者いきがい作り)	1 件
(高齢者福祉推進員)	3 件	(介護予防ふれあいサークル)	1 件
(ひとり暮らし高齢者支援)	2 件	(対認知症要支援者)	1 件
(介護認定)	2 件	(地区センター活用)	1 件
(介護保険料)	2 件	(訪問入浴)	1 件
(マイナ保険証)	1 件	●施設拡充・制度改善に関すること	5 件
(介護関係者の連携不足)	1 件	(地域包括支援センター)	2 件
(介護予防推進員)	1 件	(看護小規模多機能型居宅介護事業所)	1 件
(高齢者見守りなど)	1 件	(高齢者いきがい工房)	1 件
(在宅介護)	1 件	(特別養護老人ホーム)	1 件
(事業者支援)	1 件	●参加者・加入者不足に関すること	5 件
●プランの内容・方向性に関すること	21 件	(老人クラブ)	3 件
(総論)	9 件	(自治振興会)	1 件
(介護人材不足)	3 件	(町内会・老人会)	1 件
(説明不足)	3 件	●スマホ等の利活用支援に関すること	4 件
(分析の深堀り)	2 件	(アプリ等の講習会)	3 件
(地域きめ細かく)	1 件	(アプリ等の改善)	1 件
(地域包括ケアシステム)	1 件	●デジタル化推進に関すること	3 件
(認知症対策)	1 件	(情報発信力向上)	1 件
(老々介護)	1 件	(電子回覧板)	1 件
●サービス設計に関すること	13 件	(認知症対策)	1 件
(おでかけ定期券)	4 件	合 計	74 件
(健康づくり)	2 件		

(参考) 地域懇談会の開催状況について

日 時	会場 (所在地)	参加人数
8月18日 (金) 14:00~15:00	大久保ふれあいセンター1F 多目的ホール (下大久保)	10人
8月25日 (金) 14:00~15:00	婦中ふれあい館2F 大研修室 (婦中町砂子田)	26人
8月29日 (火) 14:00~15:00	Toyama Sakura ビル5階 大会議室 (新桜町)	23人
合 計		59人 (平均約20人)

策定懇話会・地域懇談会での主な質問・意見について

No	区分	内容
1	制度設計 (対認知症要支援者)	日中介護者が不在で在宅が困難な認知症の方に対して、施設入所をすすめる制度が必要ではないか。
2	制度設計 (対認知症要支援者)	認知症が疑われる方に対して、町内会長等の意見があれば本人の同意がなくても認知症の有無を医者に判定していただく制度を作ることを提案したい。
3	制度設計 (福祉推進員)	社会福祉協議会の福祉推進員に守秘義務がないことで、民生委員との災害時の連携に支障が生じている。
4	制度設計 (福祉推進員)	福祉推進員は民生委員のように法令で職務が明確にされていないことが、福祉推進による地域での問題解決の妨げになっているため、福祉推進員の職務を制度的に明確にすれば地域で活動しやすいのではないか。
5	制度設計 (福祉推進員)	1人暮らしの高齢者については高齢者福祉推進員が付けられることになっているが、一方で、市の方から認定を受けていない高齢者、75歳以上の老夫婦などに対する市のフォロー体制は、今現在ほとんどできてない。民生児童委員だけでフォローすることも難しい。各自治会や町内会それぞれに、福祉を継続的に見ていくための福祉推進員を制度として設けてはどうか。福祉推進員を中心に町内会や自治会での課題を見出し、長寿会、児童クラブなどの組織力を伸ばして見守り体制を作り、福祉推進員が継続してコーディネートしていく組織が大事だ。
6	制度設計 (高齢者福祉推進員)	現在、1人暮らし高齢者台帳への登録者に対して高齢福祉推進員を付けていただいているが、その範囲を特定の人だけでなく、地域の方全体に広めていただくことはできないか。今後、介護要員が大きく不足してくる中で、1日でも早く困ってる人や認知症など気になる人を見出して、専門機関や民生委員に情報提供してもらえらる人材を、少しでも多く付けていただきたい。また、地区社協が委嘱をしている福祉推進員についても、市の方に取り込んでいただけないか。
7	制度設計 (高齢者福祉推進員)	町内の役員のなり手がいないのに、高齢者が増えてくるので対応ができない。福祉推進員や、民生委員もどうしているのか。このような制度を見直す必要があると思う。住民に転嫁するのではなく、行政でフォローする制度を作ることが必要だ。高齢者のサークル活動等に対する補助金を、地域包括支援センターの要員を増やすための資金に回して、フォローしてもらおう案を提案したい。
8	制度設計 (ひとり暮らし高齢者支援)	高齢単身世帯への政策の充実。
9	制度設計 (介護認定)	要介護のレベルが多くあり過ぎる。もっと少なく公平に。
10	制度設計 (介護認定)	自分の身内の者も介護認定を受けているが、認定調査の結果が出るまで時間がかかりすぎるように思う。対応する人数が足りないことは分かるが、認定までの時間、家族は大変不安な気持ちでいるので、早くしてほしい。
11	制度設計 (マイナ保険証)	健康保険証の廃止への反対意見を国に上げてほしい。 特養の入所者でマイナンバーカードを申請している人は約5%。 また、現状では急変時に備えてほぼ全員の健康保険証を預かっているが、マイナンバーカードが健康保険証となると保管できない。
12	制度設計 (介護関係者の連携不足)	社会福祉協議会と民生委員、包括との連携がなっていない。
13	制度設計 (介護予防推進員)	老人クラブの介護予防推進員の強化指導徹底。
14	制度設計 (高齢者見守りなど)	高齢者の見守りや声掛けは地域住民同士でやるものなので、役所がやることだというイメージにならないようにしてほしい。
15	制度設計(在宅介護)	夜間における在宅介護制度の充実。
16	制度設計 (事業者支援)	要介護度を下げた事業所には、報奨金を出す制度を作ってほしい。東京都や品川区などの事例もあり、介護度が下がれば報酬が下がり経営が苦しくなる、という矛盾をカバーするような施策をお願いしたい。

No	区分	内容
17	プランの内容・方向性 (総論)	住み慣れた地域で、たとえ介護状態になったとしても、生きがいや役割を継続して持ち続けられるような計画を望む。
18	プランの内容・方向性 (介護人材不足)	介護保険事業者アンケートで把握した介護現場の人材不足の状況を踏まえて、第9期の高齢者総合福祉プランの中に対策を織り込んでいただきたい。
19	プランの内容・方向性 (介護人材不足)	介護人材不足への対応として、外国人の介護従事者に関する情報を行政として発信して頂きたい。外国人材の受け入れや、賃金の高い都市部への流失等に、一事業所として対応する事は難しい。行政として情報発信や対応策を指導頂きたい。
20	プランの内容・方向性 (説明不足)	いろいろな実態調査で分かった問題点に対して、具体的な解決策が示されていない。
21	プランの内容・方向性 (分析の深掘り)	多角的な切り口で調査がなされており、これに基づき分析→対策と結び付けてほしい。
22	プランの内容・方向性 (分析の深掘り)	第8期計画の進捗状況の検証・分析は何時までにまとめるのか。これに基づいた計画立案が必要ではないか。
23	プランの内容・方向性 (地域きめ細かく)	ひとつの日常生活圏内でも地域によって高齢化率が異なる等、状況は地域によって大きく異なるため、十把一絡げでなく地域の状況に沿った形で計画を策定するべきではないか。
24	プランの内容・方向性 (認知症対策)	認知症も5人に1人いるといわれているが、根掘り葉掘り詮索しないと見えてこない。こうした身近に迫る危機感のある話について、この計画の中にどのように取り入れられるのか聞かせてほしい。
25	プランの内容・方向性 (老々介護)	身近に感じている課題である「8050問題」だが、それは私たち周りの者には見えてこない。こうした課題に市として、行政としてどう対応するのか考えを教えてください。
26	サービス設計 (おでかけ定期券)	「おでかけ定期」だが、富山市中心地まで行かなければ使えない。旧細入村、猪谷とかの方から出てくるときに大沢野で降りることは不可能なのか。
27	サービス設計 (おでかけ定期券)	「おでかけ定期」については非常にいい制度だと思うが、100円で行ける範囲を拡大できる部分があると思う。そうしたことも検討して、どんどん市街の方に出してもらっても必要ではないか。
28	サービス設計 (おでかけ定期券)	「おでかけ定期」について、富山駅で16:30に乗車すると婦中なら17:00前に下車できるため100円で帰ることができるが、八尾・山田・大沢野・大山等は下車が17:00以降になるため通常運賃になる。乗車時間が17:00前であれば利用できるように検討していただきたい。
29	サービス設計 (健康づくり)	介護予防や健康寿命の延伸、心の健康作りといった会に参加させていただいているが、参加人数が限られている。また、パワーリハビリテーションは3か月だが、それで終わりではなく1~3年と続けてやっていく必要があると思う。多くの人が健康について考え、参加できるようにプランを練っていただきたい。
30	サービス設計 (健康づくり)	高齢者の健康づくり、体力づくりを、関係部署(スポーツ課や長寿課など)が密に連携し、横断的に取り組んでほしい。
31	サービス設計 (ふれあい入浴)	外出支援事業の中で「ふれあい入浴事業」について、利用者負担160円/回を200円/回に値上げしてもよいので枚数を増やしてほしい。
32	サービス設計 (行政手続支援)	行政手続きについて、要介護者や一人暮らしの方が役所に出向くことが困難なことや、理解できず手続できない事があるため、行政職員が自宅や公民館等に出張して手続きできる方法などを検討してほしい。
33	サービス設計 (高齢者いきがい作り)	市内の空き地を野菜や花等好きなものを作れるようにして、高齢者、特に男性を誘い出すための場所にしたらどうか。
34	サービス設計 (高齢者いきがい作り)	高齢者の生きがいとして、高齢者の力をボランティア活動に活かすために、例えば除雪のボランティア活動に金を払ってはどうか。
35	サービス設計 (介護予防ふれあいサークル)	介護予防ふれあいサークルについて、無尽蔵に遊ぶ金を出している状況にある。1人で複数サークルに加入するなど重複して利用する人がいて公平性がない。1人何サークルまでと制限することも必要ではないか。
36	サービス設計 (対認知症要支援者)	資料39頁の在宅介護実態調査で、認知症状への対応や排泄に関わる不安を軽減していくとあるが、これについて具体的な方策を考えているのか。

No	区分	内容
37	サービス設計 (地区センター活用)	山間地は特に、高齢化が市街地より進んでいる。地区センターを中心として、ひとり暮らし高齢者や二人暮らし高齢世帯の情報の一元化を図っていただきたい。
38	サービス設計 (訪問入浴)	現在、富山市では訪問入浴の事業所が3つ。稼働してる車も6台しかない。令和4年度の要介護4~5の方が4,980人。6台の車で1日6件なので、1日36人しか入れないが、割り返すと5日に1回しか寝たきりの人はお風呂に入れない。当然2~4の人も、1の人も入るとなった時に、富山市の寝たきりの人、要介護認定を受けてる人はお風呂に入れないということになる。これからプランを作るのであれば、何か打開策を取り入れてほしい。
39	施設拡充・制度改善 (看護小規模多機能型居宅介護事業所)	人員配置の基準通りに人を採用できず、小規模多機能型居宅介護事業所は現状維持に苦慮している。人員基準を緩和していただくことで、介護事業者全体が人手不足状況をクリアできるのではないかと。
40	施設拡充・制度改善 (高齢者いきがい工房)	高齢者いきがい工房が、旧市町村で設置にバラツキがある。旧市町村で建設、設置した設備だけで今後も継続されるのか。
41	施設拡充・制度改善 (地域包括支援センター)	高齢者の介護予防は最重要の事項である。しかし8050、ヤングケアラー、虐待等、高齢者の窓口だけでは対応しきれない課題が多くある。総合的な窓口として地域包括支援センターがあると思うが、行政との連携、高齢者、児童、障害者それぞれの窓口とのつながりが弱いように思う。
42	施設拡充・制度改善 (地域包括支援センター)	地域包括支援センターの機能充実。特に権利擁護への取り組みが十分とは言えないのでは。
43	施設拡充・制度改善 (特別養護老人ホーム)	祖母が介護認定を受けており、市内で特別養護老人ホームの空きがないため、市外の施設に入所している状況。今日の説明では特養等が他都市より充実しているため保険料が高いということだったが、実際はどうなのか、理由が知りたい。施設入所待ちの者は市内でどれくらいいるのか。これらを考慮して施設の整備をお願いしたい。
44	参加者・加入者不足 (老人クラブ)	長寿クラブの会長だが、会員が増えなくて困っている。その原因の一つは、高齢者は「65歳から」という取り扱いになっていること。老人福祉法では「60歳から」と思うが、その辺は実際どうなのか。「65歳以上」ということになれば強く勧誘できるし、地域を挙げて老人クラブに入ってもらえば、いろんなボランティア活動もできる。
45	参加者・加入者不足 (自治振興会)	自治振興会で、いま課題になっているのは人材不足で、役員すら出せない町内が沢山ある。高齢化のために少ない人数から選ばなければならないので、今後は町内の統合とか合併などしてほしい。
46	参加者・加入者不足 (町内会・老人会)	地域における支援を考えた場合、町内会、老人会等の組織力が弱まっており、包括地域ケアシステムを進める中で大きな課題になっている。
47	スマホ等の利活用支援 (アプリ等の講習会)	民間企業でスマホ講習会をしているが、長寿福祉課からも周知してもらったらいのではないかと。
48	スマホ等の利活用支援 (アプリ等の講習会)	「とほ活」をやろうと思ってアプリを入れようとしたが、分からなくなって諦めた。スマホの使い方が分からない高齢者は多いので、富山市の方から来て説明していただく活動をもう少しやっていただきたい。
49	スマホ等の利活用支援 (アプリ等の改善)	「とほ活」アプリが使用できない高齢者に対する改善策を。
50	デジタル化推進 (情報発信力向上)	デジタルを使った福祉向上施策や取り組み、具体的事例やイベント、行事の案内などをタイムリーに情報発信、情報交換ができるような仕組みづくりに取り組んでほしい。
51	デジタル化推進 (電子回覧板)	デジタル化による高齢者支援について、プランで言及してほしい。電子回覧板アプリによる高齢者見守り等。
52	デジタル化推進 (認知症対策)	認知症高齢者で、徘徊など自宅に戻る事が出来ない方が増えると思うので、携帯電話の位置情報で探せる様な体勢を作してほしい。